

クマ類の保護・管理の基本と出没及び錯誤捕獲への対応

株式会社 野生動物保護管理事務所
中川 恒祐

講演要旨

クマ類は近年分布域を拡大しつつあり、様々な人との軋轢が生じている。特に人身被害は最近 20～30 年ほどの間に増加傾向にあり、被害の低減が一層必要となっている。本講義では、被害を防ぐために必要となるクマ類の保護・管理の基本や出没対応、錯誤捕獲対応に焦点を当てて説明する。

■クマ類の保護・管理の基本

クマ類による被害を防ぎ共存を図るためには、大きく人の生活圏とクマの生息域に区分した上で、管理目的に応じてゾーニングを行い、それぞれのゾーンにおける管理方針や対応方法を定めることが重要となる。対応方法としては、クマ類の保護・管理の 3 つの柱である生息環境管理、個体群・個体管理、被害対策・出没抑制を各ゾーンで実施していく。

■出没対応

令和 3（2021）年度に環境省が公表した「クマ類の出没対応マニュアル改定版」に基づき、人の生活圏に出没するクマ類への対応方法を紹介する。出没対応にあたっては、出没に未然に備えておくことと出没があった際に適切に対応することが重要である。出没に備えて実施すべきこととして、対応方針の策定、対応人員の確保、連絡体制の構築、出没を想定した研修などの体制面の整備や平時から集落等においてクマを寄せ付けない対策を実施しておくことが挙げられる。クマを寄せ付けない対策としては、誘引物の除去・管理および進入・滞在しにくい環境の整備が基本となる。

いざ出没があった際は事前に整備しておいた体制の下、迅速で適切な対応を進めることとなる。特に近年は、集落や市街地等にクマ類が出没する事案が増加していることから、対応方法をよく理解し適切な判断を下すことが一層求められている。出没個体への対応方法としては追い払い、猟銃や麻酔銃、捕獲檻などによる捕獲、監視などが選択肢としてあり、それぞれの特徴や長所、問題点などを説明する。また、近年市街地に出没したクマ類に対して銃による対処が必要となる状況が増加していることから、住居集合地域等における銃の使用についての関連法令を紹介する。加えて、人身被害が発生してしまった時の現場検証の重要性などについても説明する。

■錯誤捕獲への対応

近年のシカやイノシシへの捕獲圧の強化およびクマ類の分布拡大や生息数増加により、クマ類の錯誤捕獲は増加していると考えられている。錯誤捕獲は従事者等への人身

事故のリスクやクマ類の受傷などの多くの問題を孕んでいる。そのため、錯誤捕獲を未然に防止する方法や発生した際に事故が起きる可能性を軽減する方法の理解が重要となる。また、錯誤捕獲発生から放獣に至るまでの一連の対応において、特に注意すべき点を解説する。